



ロータリーは機会の扉を開く

2020~2021 RI.2760地区

瀬戸ロータリークラブ会報

2021年6月9日発行 第2795号

本日のプログラム

2021年6月9日(水)

通算第2972回例会

本年度第39回

WEB例会

例会次第

- ・開会点鐘
- ・会長挨拶
- ・報告事項
- ・クラブフォーラム

午前中にメール・FAXにて配信

前回例会記録

2021年6月2日第2971回例会

WEB例会

- ・出席報告 54名中 33名
出席率 61.11%
- ・行事 入会式 柳澤 博志君
- ・卓話 パスト会長 寺田 悟君
「ロータリー回顧」

例会予定

6月16日(水)

WEB例会

6月23日(水)

通常例会

(食事はありません12時30分開始)

会長 松村晋也君

「会長年間回顧」

入会式 柳澤 博志 君

東海東京証券(株) 瀬戸支店 支店長



第2971回例会挨拶 会長 松村晋也君

皆様、こんにちは。本日は第2971回の例会です。本日もWEBの例会とさせていただきます。

今コロナは変異株が主体とされています。収束の見通しがたちません。さて、6月に入りました。年度の最後となりました。RIの月間としては、親睦活動月間です。本日はこれに因んだ話しをさせていただきます。

よく、親睦、親睦活動、親睦活動委員会の3つを混同して考えることがあります。親睦とは英語の Fellowship を訳したものであり、この訳が適切ではなく、むしろ「連帯感」とか「協調」と言う意味のほうが理解しやすいと思います。ロータリーの二大看板は親睦と奉仕とされています。親睦なくしては、クラブは瓦解するし、奉仕がロータリー活動の大きな目的である事は疑いのない事実です。我々ロータリアンは一国一城のあるじであり、その人達が例会場に集い、その中で切磋琢磨してお互いの人間性を高め、自己改善を図っていき、その結果として奉仕の心が育まれていきます。この一連の活動の事を親睦と言います。そして奉仕の心を家庭で、職場で、地域で実践していくことが理想的なロータリーライフと

言われており、この事を「入りて学び、出でて奉仕せよ」と言います。

我々は入会式の最後に会長から「親睦活動委員会で活躍下さい」と言われます。次の例会に早く来て、先輩やお客様を出迎えます。これは、新人だからこき使おうとか、下働きをさせようと言う意味ではなく、早く諸先輩の顔を覚えロータリーの雰囲気馴染んでロータリーを理解し、好きになって欲しいからであります。又、親睦夜間例会や、年末家族会あるいは同好会などでも活躍していただくのも同じ意味です。これらの活動を親睦活動と言い、その委員会の事を親睦活動委員会と言います。クラブによっては余興やエンターテイメントに特化した委員会として、余興委員会、エンターテイメント委員会と名づけて行っているクラブもありますが、瀬戸ロータリーは全て親睦活動委員会が受け持っています。いずれにしても親睦と友情が早く深まって行くことが重要です。

本日は親睦活動に因んだ話しをさせていただきます。会長挨拶とします。

パスト会長 寺田 悟君 「ロータリー回顧」



今後、卓話の機会も少なくなると思うので、今までの在籍中に、特に強く感じた事、又、記憶に残っている事をお話したいと思います。

本題の前に、青山稔委員長から会場監督の役務について、今一度紹介をとの要望ですので、先にこの件からと思います。

SAA (Sergeant-at-Arms) 会場監督は直訳すれば武装した下士官ですが、本来は、イギリス王室や領主が行う各種の儀式の秩序を守る為に設けられた役職です。会合を妨害したり、秩序を乱すのを防ぐ為に、厳重に武装した騎士を配置して、種々の会合の監督をさせた事から、この名前がつけました。その後は中世ヨーロッパの宮廷で、外国の賓客を招いたレセプションが開かれる場合、その会場をとり仕きる役職となりましたが、その制度がアメリカ議会に導入され、それがロータリーに及んだものを考えられます。ロータリーでSAAが正式な役職として定められたのは1906年で、ポール・ハリス、マックス・ウォルフ、チャールス・ニュートンがシカゴクラブの最初のSAAに就任しました。ロータリーの全ての会合では、SAAは最高の権限を持つ執行機関の役員であり、全ての会員はSAAの指示に従わなければなりません。例会場の管理者である事から、強いリーダーシップが要求されるので、会長経験者やロータリアンとして経験豊かな会員から任命する事が望ましく、更にその役職の重要性を考えると、副SAAを含めて全会員の10%以上の数が望ましいとされています。会場監督はこれ位にして、ロータリー回顧についてお話ししたいと思います。

私は1989年、平成元年9月27日、3名で入会させていただきました。今でも大ホールへ入る際の緊張感と、入口に立っていた青タスキの諸先輩の心こもった優しいお出迎えは、つい昨日の事のように今でも懐かしく思い出されます。「ああ、これで私も希望していた名門、瀬戸ロータリークラブの一員」と自覚を深く心に刻んだ事を思い出します。入会時、山内鑛平会長・長江克彦幹事でした。

次に印象に残った事業について述べたいと思います。それ

は、1990-91年度 加藤光哉会長のご発案で、従来の遠出の家族会にかわって、近場で誰もが参加し易い家族会という事で、当時親睦2年目の私は、河村敦司親睦委員長のご指示により、今は亡き波多野耕一君と2人で企画・立案し、マルセ市場の休日を開放して頂き、パレットで島を作り、一つの島に2家族、8~10名分をセットし、炭火コンロで海の幸、山の幸をマルセ市場から提供頂き、和気藹藹の中、飲み、食い、語り、4時間程があったという間に過ぎ、最後は活魚をセリで落として土産に持って帰ってもらいました。遠出のバスでの家族会も車中の楽しさもあり親睦も深まりますが、たまにはこうした手造りで多くのご家族が集い易い近場の家族会も大いにその実を上げられると思いました。

3点目は1999-00年度 平松啓会長・小生が幹事の瀬戸ロータリークラブ40周年の思い出です。周年ですので、通年よりは多忙でしたが、若さもあって、又、平松会長のお人柄もあって大変楽しい一年でした。記念事業は、文化センターが瀬戸市の方々

で超満員の中、中島啓子さんのコンサート、永六輔さんの素晴らしいトークで、大成功で終える事ができました。

4点目は2007-08年度 小生が会長、藤井源成幹事のクラブ48周年の思い出です。RIテーマ「ロータリーは分ちあいの心」、地区テーマ「違いをもたらそう」を踏まえ、瀬戸ロータリークラブのテーマを「例会の更なる充実こそロータリー活動の源泉である」を掲げました。6点の重点項目を掲げましたが、特に次の事柄に腐心致しました。第一は卓話の充実です。外部の方々の卓話、話題性のあるタイムリーな卓話の他に、クラブの至宝であるパスト会長に経験豊かな卓話をして頂きました。第二にロータリーの事を広く瀬戸市民に知って頂く為に、ラジオサンQさんのご協力の下、月に1回、私がスタジオに行き、分かり易くロータリーへのご理解を頂ける様、約20分広報致しました。その一回目がガバナー公式訪問を終えられた江崎柳節ガバナーとの対談でした。この取組でRIから国際ロータリー広報賞を頂きました。第三は例会の席次を予め名札を置いて、入会歴の浅い会員とベテラン会員と同席とし、話のきっかけ、話題、趣味等を通じて、世代ギャップを越えて親睦・融和を図る試みを致しました。

この他にも諏訪ロータリークラブとの交流、地区大会での楽しい思い出等、数えきれない思い出ばかりです。

いずれにしても瀬戸ロータリーに入会させて頂いて32年間、嫌だと思った事は一度もありません。クラブ内で初めてのお付き合いの方、地区内で知り合った多くの方々、入会していなければ会う事もなかったであろう素晴らしい方々との出逢いは全てロータリーのお陰です。外出時、どの上着の胸にもロータリーバッジを付けて外出します。自己規律と誇りの為、又、初めて会う方でバッジのとりもつご縁が始まるお付き合いの方も多くあります。一業種一人の想いは今も強く持ちつつ、職業奉仕を通じて、世の為に良い事をしようと思念じて今後とも活動して行きたいと思っています。